

新発田市立小・中学校の
望ましい教育環境に関する基本方針

平成23年6月改訂

新発田市教育委員会

目 次

1	基本方針策定の経緯	1
2	小・中学校の現状	1
	(1) 児童・生徒数の推移	
	(2) 学校規模の現状	
3	教育制度等検討委員会の提言	7
	(1) 望ましい学校規模	
	(2) 通学の在り方	
	(3) 地域と学校の在り方	
	(4) 学校規模適正化の方策	
	(5) 学区再編の実施順序	
	(6) 学区再編の再検討の必要	
4	望ましい教育環境に関する基本的な考え方	8
	(1) 望ましい教育環境について	
	(2) 望ましい教育環境とその実現に向けた方策	
	(3) 統合に伴う通学対策と今後の通学支援	
5	学校規模の適正化の検討	10
	(1) 学校規模別の検討方針	
	(2) 学区再編の実施範囲	
	(3) 新発田市立小学校統合の将来像パターン図	
	(4) 学校別全児童(生徒)数及び新入学児童(生徒)数の今後の推移表	
6	今後の学区再編の進め方	11

参考資料編

1	学校別児童・生徒・学級数一覧	5	学級数別学校割合 (H21:H27)
2	中学校区別児童・生徒数の推移	6	学級人数別学校割合 (H21:H27)
3	学校規模の区分及び適正規模の根拠法令	7	小規模校のメリット・デメリット
4	学校規模別学校数の比較 (H21:H27)		

1 基本方針策定の経緯

本市における児童・生徒数は、統計のある昭和 39 年の 21,224 人から平成 20 年では 8,543 人と約 60%も減少しています。これは、全国と同じ比較で見た場合の減少率約 36%を大きく上回っており、本市児童・生徒数の減少傾向がいかに著しいかが読み取れます。そして、この傾向は現在も続いており、今後も同様に推移することが予測されます。

また、子どもたちの数が減るということは、地域の活力が失われていくということであり、特に市街地郊外でこの傾向が著しいといえます。しかしながら、人口のピーク時に設置した学校は、その後も存在し続けている学校が多く、児童・生徒数の減少に伴って学級数も減少し、学校の小規模化が年々顕著となっています。

このような学校の小規模化が子どもたちの教育にどのような影響を与えるのか、また望ましい教育環境とはどのような環境をいうのか、子どもたちの将来の教育環境を見据えたとき、今この時に市としての方向性を明確にしておく必要があると考えました。そこで、市では、様々な角度からご意見をいただくため、市民各層の代表からなる教育制度等検討委員会を設置し、アドバイザーとして敬和学園大学及び新潟大学の先生より専門的立場からご助言をいただきながら、子どもたちの望ましい教育環境について検討をお願いしました。

そして、平成 20 年 9 月から 8 回にわたる検討会議を経て、平成 21 年 5 月に検討委員会報告書が市に提出されました。教育委員会では、今後、望ましい教育環境を整備するにあたり、この報告書の提言に基づいて、このたび「新発田市立小・中学校の望ましい教育環境に関する基本方針」を策定したものです。

なお、市では、この基本方針に基づいて実施する通学区域の再編成（学区再編）は、小学校区から実施することとしています。

2 小・中学校の現状

(1) 児童・生徒数の推移

本市小・中学校の児童・生徒数の推移を平成 10 年と平成 20 年の比較で見ると、次のようになります。

小学校

平成 10 年 7,302 人 平成 20 年 5,520 人
(10 年間で 1,782 人、24%の減。年平均 178 人の減)

中学校

平成 10 年 4,062 人 平成 20 年 3,023 人
(10 年間で 1,039 人、26%の減。年平均 104 人の減)

また、平成 20 年と平成 25 年(予測)の比較でみると、次のようになります。

小学校

平成 20 年 5,520 人 平成 25 年 4,870 人
(5 年間で 650 人、約 11.8%の減。年平均 130 人の減)

中学校

平成 20 年 3,023 人 平成 25 年 2,709 人
(5 年間で 216 人、約 7.1%の減。年平均 43 人の減)

以上のように、児童・生徒数の減少傾向は、歯止めが掛かることなく長期間にわたって続いており、現時点のデータに基づく将来予測においても、この減少傾向は続くと見られます。

(2) 学校規模の現状

学校規模については、国が示している一般的な区分(参考資料編 P13 参照)がありますが、これに照らし合わせた場合、平成 21 年度の本市小・中学校の状況は次のようになります。

小学校

小学校全 24 校のうち、大規模校(19~30 学級)が 2 校、適正規模校(12~18 学級)が 5 校、小規模校(6~11 学級)が 12 校、過小規模校(1~5 学級)が 5 校となっており、小規模校と過小規模校が全体の 70.8%を占めています。また、小規模校のうち、全学級数が 6 学級(1 学年 1 学級)の学校が 10 校あり、過小規模校と併せた全学級数 6 学級以下の学校(15 校)が、全体の 62.5%を占めています。

中学校

中学校全 10 校のうち、適正規模校が 3 校、小規模校が 7 校となっており、小規模校が全体の 70%を占めています。ただし、1 学年 2 学級以上の学校が 8 校あり、小学校ほどの 1 学年 1 学級以下の単学級化及び複式学級化は進んでいません。

以上のように、小学校における小規模化が著しく、特に市街地郊外の小学校において顕著となっており、当該地域の 70%以上の小学校が 1 学年 1 学級以下の小規模校となっています。

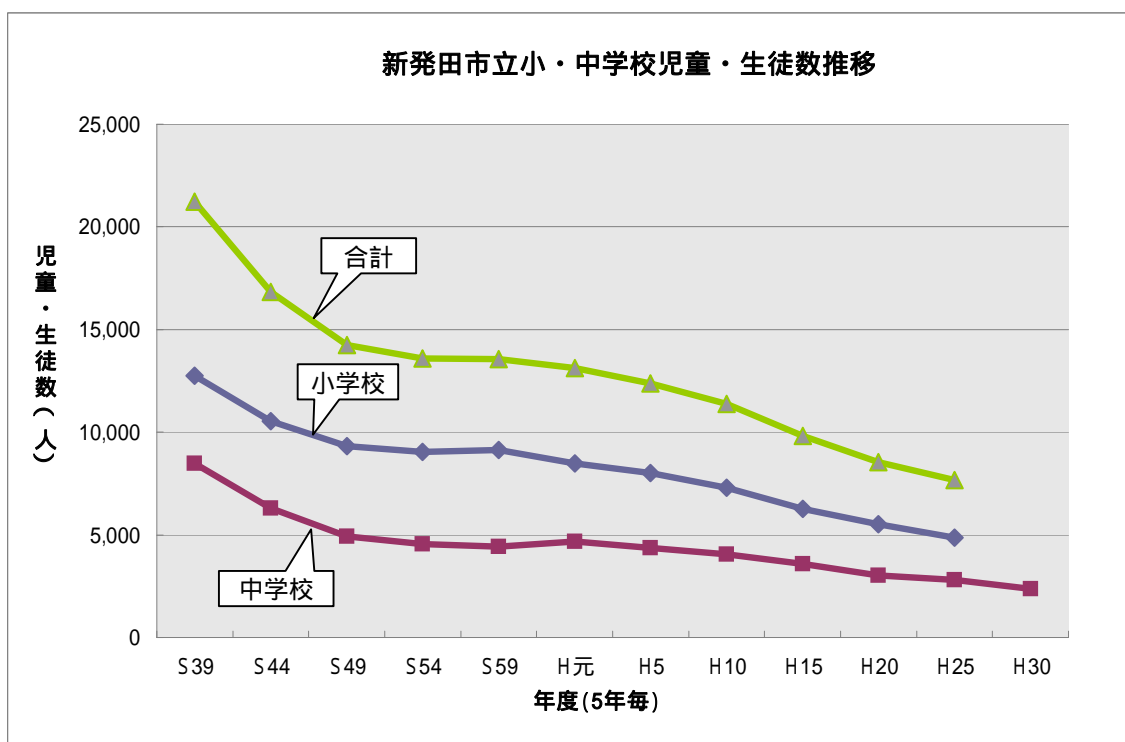
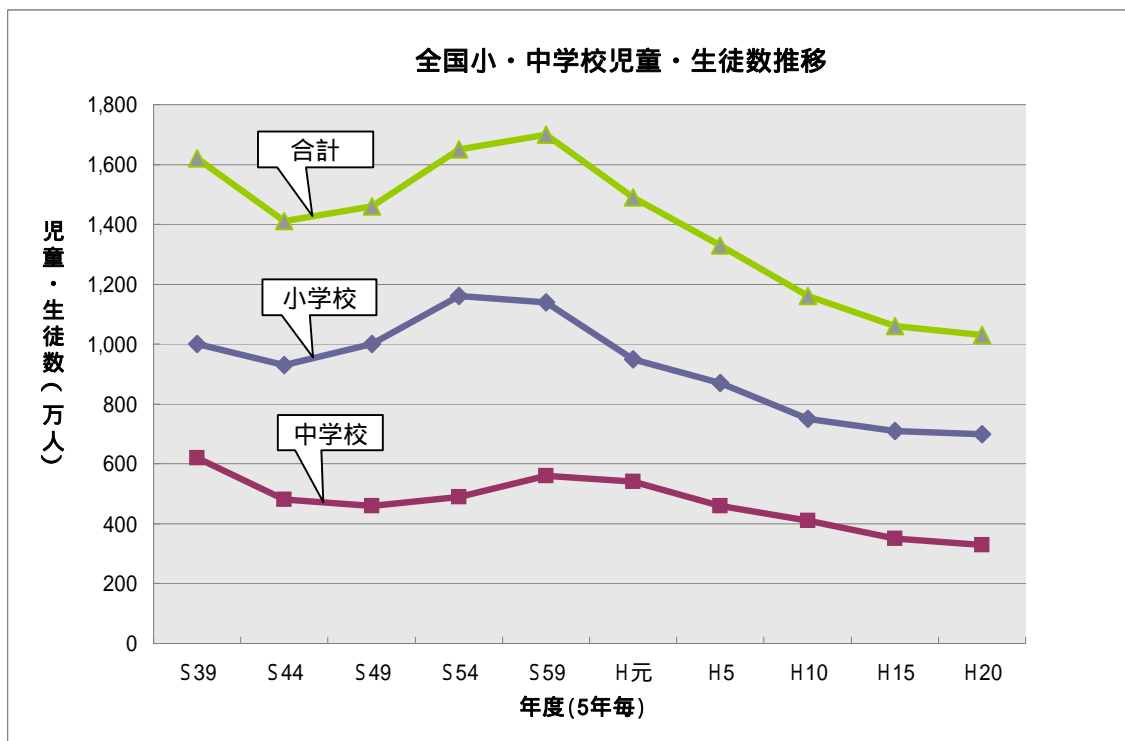
表とグラフで見る児童・生徒数の推移（全国：新発田市）

（平成21年5月1日現在）

区分	S 39	S 44	S 49	S 54	S 59	H元	H5	H10	H15	H20	H25	H30
全国 (万人)	小学校	1,000	930	1,000	1,160	1,140	950	870	750	710	700	
	中学校	620	480	460	490	560	540	460	410	350	330	
	合計	1,620	1,410	1,460	1,650	1,700	1,490	1,330	1,160	1,060	1,030	
新発田市 (人)	小学校	12,744	10,545	9,318	9,031	9,121	8,469	8,012	7,302	6,255	5,520	4,870
	中学校	8,480	6,282	4,922	4,546	4,436	4,661	4,367	4,062	3,573	3,023	2,807
	合計	21,224	16,827	14,240	13,577	13,557	13,130	12,379	11,364	9,828	8,543	7,677

第1次ベビーブーム世代
1949年（昭和24年）生まれ

第2次ベビーブーム世代
1973年（昭和48年）



学校別児童・生徒数等の比較（H21年度 H27年度[予測]）

- 1 増減率 = 増減数 ÷ H21 全校児童(生徒)数 × 100（小数第2位を四捨五入）
- 2 1学級当たりの人数 = 全校児童(生徒)数 ÷ 学級数（小数第1位を四捨五入）
- 3 H21の全校児童(生徒)数には、特別支援学級の児童(生徒)を含みます。また、H21の学級数は普通学級を基にしています。

ア) 小学校

中学校区	学校名	H21年度とH27年度の比較									
		全校児童数(人)				学級数			1学級当たりの人数		
		H21	H27	増減数	増減率%	H21	H27	増減数	H21	H27	増減数
本丸	外ヶ輪小学校	388	332	56	14.4	12	12	0	32	28	4
	二葉小学校	329	307	22	6.7	12	12	0	27	26	1
本丸・第一	東豊小学校	597	492	105	17.6	19	16	3	31	31	0
第一	御免町小学校	507	419	88	17.4	17	13	4	30	32	2
猿橋	猿橋小学校	776	771	5	0.6	24	25	1	32	31	1
	住吉小学校	445	447	2	0.4	14	14	0	32	32	0
東	松浦小学校	89	79	10	11.2	6	6	0	15	13	2
	五十公野小学校	276	262	14	5.1	11	10	1	25	26	1
	米倉小学校	65	46	19	29.2	5	4	1	13	12	1
	赤谷小学校	14	5	9	64.3	3	3	0	5	2	3
川東	川東小学校	123	95	28	22.8	6	6	0	21	16	5
	竹俣小学校	58	56	2	3.4	5	6	1	12	9	3
	車野小学校	35	33	2	5.7	4	4	0	9	8	1
七葉	菅谷小学校	114	84	30	26.3	6	6	0	19	14	5
	七葉小学校	287	168	119	41.5	11	6	5	26	28	2
佐々木	佐々木小学校	179	121	58	32.4	6	6	0	30	20	10
豊浦	荒橋小学校	68	62	6	8.8	5	5	0	14	12	2
	中浦小学校	150	99	51	34.0	6	6	0	25	17	8
	天王小学校	93	80	13	14.0	6	6	0	16	13	3
	本田小学校	115	77	38	33.0	6	6	0	19	13	6
紫雲寺	紫雲寺小学校	191	178	13	6.8	6	6	0	32	30	2
	米子小学校	92	88	4	4.3	6	6	0	15	15	0
	藤塚小学校	108	111	3	2.8	6	6	0	18	19	1
加治川	加治川小学校	315	256	59	18.7	12	11	1	26	23	3
小学校全体		5,414	4,668	746	13.8	214	201	13	25	23	2

イ) 中学校

学校名	H21年度とH27年度の比較									
	全校生徒数(人)				学級数			1学級当たりの人数		
	H21	H27	増減数	増減率%	H21	H27	増減数	H21	H27	増減数
本丸中学校	554	514	40	7.2	15	14	1	37	37	0
第一中学校	382	417	35	9.2	12	12	0	32	35	3
猿橋中学校	583	642	59	10.1	16	18	2	36	36	0
東中学校	264	201	63	23.9	9	6	3	29	34	5
川東中学校	125	91	34	27.2	5	3	2	25	30	5
七葉中学校	222	182	40	18.0	7	6	1	32	30	2
佐々木中学校	127	73	54	42.5	4	3	1	32	24	8
豊浦中学校	237	205	32	13.5	7	6	1	34	34	0
紫雲寺中学校	216	181	35	16.2	6	6	0	36	30	6
加治川中学校	174	139	35	20.1	6	6	0	29	23	6
中学校全体	2,884	2,645	239	8.3	87	80	7	33	33	0

過去10年間の市内出生児数の推移

(人)

年度	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20
出生児数	906	901	846	823	824	756	799	783	741	774
対前年比	-	5	55	23	1	68	43	16	42	33

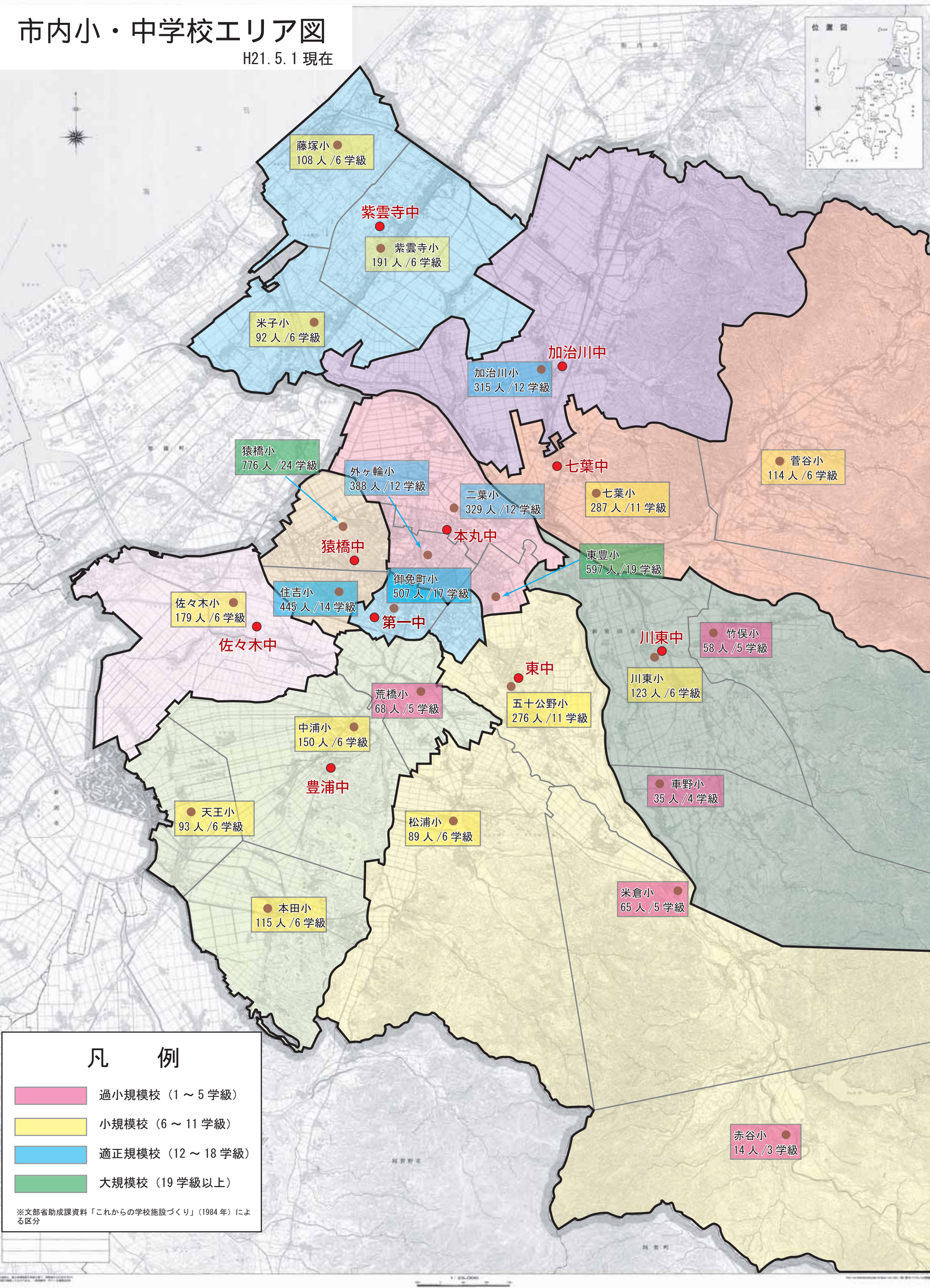
今後5年間の市内児童・生徒数の推移(予測)

(人)

	年 度	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計	対H21増減	
		児童数	児童数	児童数	児童数	児童数	児童数	児童数	児童数	減少率
小学校 全体	H21	839	864	930	904	964	913	5,414		
	H22	807	839	864	930	904	964	5,308	106	
	H23	773	807	839	864	930	904	5,117	297	
	H24	800	773	807	839	864	930	5,013	401	
	H25	787	800	773	807	839	864	4,870	544	
	H26	749	787	800	773	807	839	4,755	659	
	H27	752	749	787	800	773	807	4,668	746	13.8%
		生徒数	生徒数	生徒数				生徒数	生徒数	減少率
中学校 全体	H21	912	971	1,001				2,884		
	H22	913	912	971				2,796	88	
	H23	966	913	912				2,791	93	
	H24	906	966	913				2,785	99	
	H25	935	906	966				2,807	77	
	H26	866	935	906				2,707	177	
	H27	844	866	935				2,645	239	8.3%

市内小・中学校エリア図

H21.5.1 現在



凡 例

- 過小規模校 (1～5 学級)
- 小規模校 (6～11 学級)
- 適正規模校 (12～18 学級)
- 大規模校 (19 学級以上)

※文部省助成課資料「これからの学校施設づくり」(1984年)による区分

藤塚小 ● 108人 / 6学級

紫雲寺中
● 紫雲寺小
191人 / 6学級

米子小 ● 92人 / 6学級

加治川中
● 加治川小
315人 / 12学級

猿橋小 ● 776人 / 24学級

外ヶ輪小 ● 388人 / 12学級

● 菅谷小
114人 / 6学級

● 二葉小
329人 / 12学級

● 七葉小
287人 / 11学級

● 猿橋中

● 本丸中

● 東豊小
597人 / 19学級

● 佐々木小
179人 / 6学級

● 住吉小
445人 / 14学級

● 御免町小
507人 / 17学級

● 第一中

● 佐々木中

● 川東中

● 竹俣小
58人 / 5学級

● 中浦小
150人 / 6学級

● 荒橋小
68人 / 5学級

● 東中
● 五十公野小
276人 / 11学級

● 川東小
123人 / 6学級

● 豊浦中

● 車野小
35人 / 4学級

● 天王小
93人 / 6学級

● 松浦小
89人 / 6学級

● 本田小
115人 / 6学級

● 米倉小
65人 / 5学級

● 赤谷小
14人 / 3学級

3 教育制度等検討委員会の提言

新発田市教育制度等検討委員会は、学識経験者、地域代表、保護者代表及び学校関係者並びに公募市民を委員とし、先に述べた小・中学校の現状を基にして「子どもたちの望ましい教育環境」について検討を行いました。そして、その検討結果をまとめた報告書では、以下のような提言をいただきました。

(1) 望ましい学校規模

小規模校のメリット・デメリットの検証を踏まえ、子どもたちの将来を見据えた教育環境を考えたとき、望ましい学校規模として、“学級数については、クラス替えができる1学年2学級以上、学級人数については、1学級20人以上が望ましい”。

(2) 通学の在り方

通学支援については、現在目安としている片道の通学距離が、小学校4km以上、中学校6km以上という通学距離のみで判断することなく、通学実態を考慮した支援を行う。

(3) 地域と学校の在り方

学校が地域において果たしてきた中核的・拠点的役割を十分考慮して、学校の適正規模化を進めるにあたっては、地域の実情に配慮した検討が必要である。廃校となった学校施設については、その活用について検討し、地域活性化に資するよう努める。

(4) 学校規模適正化の方策

学校統廃合も視野に入れた通学区域の再編成(学区再編)を行う。この場合、1学年2学級未満の学校であっても、当該地域の実情を考慮し、学校存続について配慮する。

(5) 学区再編の実施順序

学区再編は、学校の小規模化が著しい小学校区を優先し、中学校区については、小学校区の学区再編に一定の目処がついた時点で検討する。

(6) 学区再編の再検討の必要

この提言は、提言の策定時における少子化の傾向と国・県の政策を踏まえて行ったものであり、将来、予測を超えた状況の変化があったときは、再度検討する必要がある。

4 望ましい教育環境に関する基本的な考え方

市では、教育制度等検討委員会からいただいた提言を基に、望ましい教育環境について以下のように考えるとともに、その実現に向けた整備を進めていきます。

(1) 望ましい教育環境について

小・中学校時代は、子どもたちが人間関係の基礎を築く年代であり、成長過程を経て徐々に人間形成が図られていく中で、どのような規模の学校環境で小・中学校時代を過ごすかは、集団生活に必要な社会性や協調性を育むうえで大変重要であると考えます。子どもたちは、様々な学習活動や学校行事を通じて、自分なりの考え方を構築し自己主張する能力を養っていきますが、成長するに従って行動範囲が広がり、様々な人間関係を経験していくことを考えると、より多くの人数がいる集団の中で過ごすことによって、その後の社会生活への適応力が磨かれていくものと考えます。また、小規模校の場合は、グループや班単位による学習やスポーツ活動が、人数的な制約から思うように展開できなかったり、1学年1学級以下の場合はクラス替えができないため、人間関係が固定化してしまうなど、教育面や人間関係面においてデメリットが生じているのが実情です。

このように考えたとき、望ましい教育環境とは、子どもたちが将来、社会人となるまでの人間的成長過程を十分考慮し、仲間づくりや学習活動、学校行事といった場面で人間力を磨きながら、活気にあふれた学校生活を送れる教育環境こそが望ましい教育環境ではないかと考えます。そして、望ましい教育環境の実現には、学校をある程度の規模をもった学校にすることが必要であり、その具体的方策として、学校規模の適正化に取り組まなければならないと考えます。

また、望ましい教育環境とは、単に学校規模の問題だけではなく、学校統合が行なわれた場合の地域環境の整備や通学対策など、学校整備に伴って派生してくる諸課題への対応も必要となってきます。

人間力...「自ら学び考える力」「健やかな体」「豊かな心」を体得し、人間社会を力強く生きる力。

(2) 望ましい教育環境とその実現に向けた方策

望ましい教育環境の実現には、学校をある程度の規模をもった学校にすることが必要であるという理念を基にしたとき、具体的にどの程度の学校規模が望ましいのかを考える必要があります。これについては、本市教育制度等検討委員会が行った小規模校のメリット・デメリットの検討や先進自治体の様々な検討事例を参考にして考えたとき、本市では小・中学校の望ましい学校規模として次のように考えます。

学級数については、クラス替えができる 1 学年 2 学級以上、学級人数については、1 学級 20 人以上が望ましい。

上記の規模を望ましいとする主な理由

【1 学年 2 学級以上】

- ・クラス替えが可能となる
- ・集団としての競争心が育成される
- ・多くの先生と接する中で、子どもたちの多面的なものの見方が育成される

【1 学級 20 人以上】

- ・多様な考えや意見の中で、思考力・判断力・表現力が磨かれる
- ・競争心が育まれ、切磋琢磨する向上心が生まれる
- ・複数グループによる学習活動や集団スポーツなどが可能になる

以上の望ましい学校規模を実現するにあたっては、次のことを踏まえて検討を進めていくこととします。

望ましい学校規模の実現の方法

学校規模の適正化に向け、学校統合を主体とした通学区域の再編成（学区再編）を行います。この場合、1 学年 2 学級未満の学校であっても、当該地域の実情を考慮し、学校存続について配慮するものとします。

実態を考慮した学区再編

学区再編は、望ましい学校規模（1 学年 2 学級以上、1 学級 20 人以上）の実現を目標として実施しますが、ここで言う望ましい学校規模は絶対的基準ではなく、子どもたちが少しでも人数の多い集団で学び、お互いに切磋琢磨し、人間的成長が図れる環境を造ることを主眼としています。したがって、たとえ望ましい学校規模が実現されない場合であっても、子どもたちにとってより良い教育環境が実現されると見込まれるときは、学区再編を検討することとします。

廃校となった地域の活性化

学校統合により廃校となった学校施設については、地域とともに歩んできた拠点的施設でもあることから、可能な限りその利活用を図ることとし、地域と行政が一体となって検討を行い、地域の活性化に資するよう努めます。

学区再編の実施順序

学区再編は、学校の小規模化が著しい小学校区を優先して実施することとし、中学校区については、小学校区の学区再編に一定の目途がついた時点で検討することとします。

基本方針の再検討

ここでの基本方針は、基本方針の策定時点における少子化傾向の推計と国・県の政策を踏まえて作成したものであり、今後、予測を超えた状況の変化があったときは、必要に応じて方針の変更等を検討することとします。

(3) 統合に伴う通学対策と今後の通学支援

学校統合により通学が遠距離となる地域については、スクールバス等を運行するなど十分な通学対策を講じます。

通学支援については、通学距離のみをもって判断基準とせず、安全安心を優先した通学支援を行います。

5 学校規模の適正化の検討

小学校の学校規模の適正化は、児童数及び学級数の現状と将来的な推移を見据えたうえで、次のような基準に基づいて行います。

(1) 学校規模別の検討方針

学校規模の適正化は、学校規模別に次の表に定める検討方針に基づいて検討を行うこととします。

学校規模	学級数	検討方針
過小規模校	1～5学級 (複式学級)	同一中学校区内の他の小学校と統合し、統合後の小学校が1学年2学級以上(全12学級以上)となることを目指す。ただし、統合しても全12学級未満となる場合であっても、子どもたちの教育環境としてメリットが十分考えられる場合は、統合を検討するものとする。
小規模校	6～11学級	
適正規模校	12～18学級	同一中学校区内の適正規模校であっても、適正規模を維持する範囲内の場合は、統合を検討するものとする。
大規模校	19～30学級	長期的予測において、過大規模校となる見込みがない場合は、現状維持とする。
過大規模校	31学級以上	現在当市に過大規模校はない。

- 1 学校規模及び学級数は、法令に基づく規定ではなく、国県等が用いている一般的区分。(参考資料編 P13 参照)
- 2 過小規模校及び小規模校の学級数は、小学校の場合。
- 3 複式学級とは、引き続く2つの学年を1つの学級で編成する学級。

(2) 学区再編の実施範囲

学区再編を行う場合は、同一中学校区内を基本とします。ただし、再編の範囲が他の中学校区に及ばざるを得ない事情がある場合は、再編の影響が軽微であり、かつ、影響が隣接する中学校区のみである場合に限り、実施について検討することとします。

(3) 新発田市立小学校統合の将来像パターン図

今後、本市において実施する学区再編は、1中学校区1小学校ないし2小学校を目標とし、別紙1(P12)のような将来像パターンを想定しています。

(4) 学校別全児童(生徒)数及び新入学児童(生徒)数の今後の推移表

小・中学校別の全児童(生徒)数及び新入学児童(生徒)数の今後の推移については、別紙2(P13)の表に示すとおりと見込まれます。

6 今後の学区再編の進め方

学校規模適正化のための学区再編は、基本方針に基づいて進めていきますが、学区再編の実施にあたっては、保護者や地域の方々、学校関係者及び教育委員会で協議を進め、合意形成がなされ、条件が整った学区から順次進めていくこととします。

また、今後の学区再編については、次のような手順を踏まえて進めていきます。

(1) 地域別検討組織の設置

学区再編を進めるにあたっては、地域ごとに、保護者や地域の方々、学校関係者で構成する検討組織を設け、地域の現状と将来を見据えた観点から、子どもたちにとっての望ましい教育環境について意見を交わしていただき、その中でまとめられた地域の意見を教育委員会で検討しながら、地域との合意形成を図っていきます。

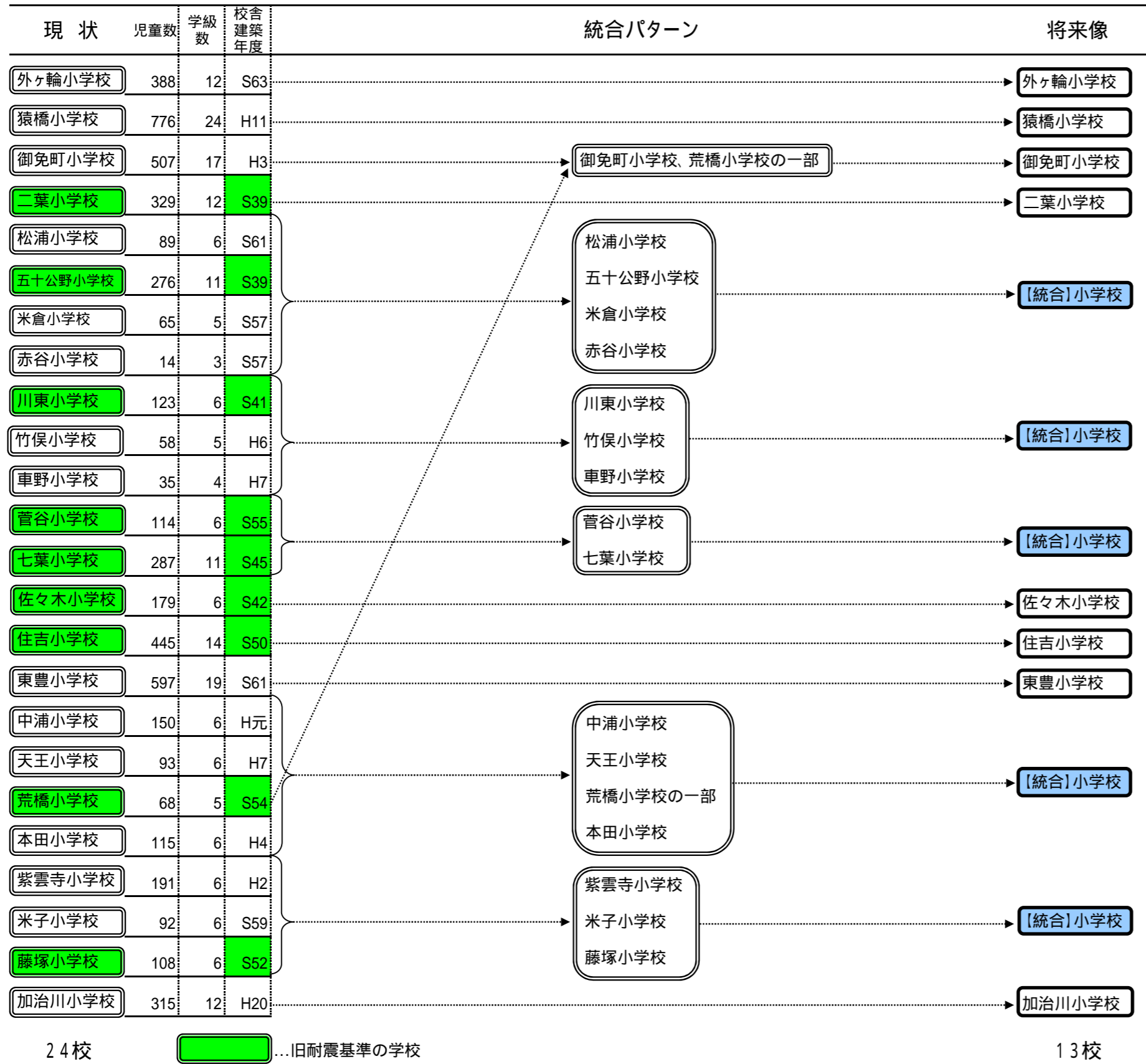
(2) 学区再編計画の策定

学区再編の実施方法及び実施時期については、地域の意見を踏まえるとともに、学校施設の耐震化計画との整合も図りながら、学区再編計画を策定します。その後は、この計画に基づいて、地域の方々と連携・協力しながら、学区再編を実行していきます。

(3) 学区再編の実施にあたって

学校統合が決まった後は、統合する予定の学校同士で、授業や学校行事等を通じた交流を行うとともに、在校生への心理面におけるケアなど十分な事前準備を行い、より円滑に統合が実現するよう、地域・学校・行政が一体となって取り組みます。

新発田市立小学校統合の将来像パターン図



【備考】

(1)耐震基準
昭和56年度以前に建てられた学校は旧耐震基準に基づいており、原則改築(建替え)か耐震診断のうえ、耐震補強が必要です。昭和57年度以降に建てられた学校は新耐震基準に基づいており、原則耐震化の必要はありません。

(2)耐震化計画
市では、学校施設など災害時に避難所となる施設については、平成27年度までに耐震化率100%を目指して、計画に取り組んでいます。

(3)将来像の目標年度
統合パターンの実現に向けては、各パターンごとに関係する学区の地域・保護者等との協議を踏まえて進めてまいります。協議の開始時期については、各学校の児童数の推移や耐震化等の諸条件を勘案のうえ決めてまいりますので、全パターンが同時期に開始するとは限りません。ただし、将来像の実現については、平成32年度を目標にしています。

平成23年6月8日改定

学校別全児童(生徒)数及び新入学児童(生徒)数の今後の推移表

別紙2

- 1 H22～H27の人数は、H21年5月1日現在の学校基本調査及び住民基本台帳に基づく。
- 2 新入学児童(生徒)数の推移の()書きは、H21年度における年齢。

< 小学校 >

学校名	全児童数の推移									新入学児童数の推移								
	年度							H21とH27の比較		年度							H21とH27の比較	
	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	増減数	増減率	H21 (7才)	H22 (6才)	H23 (5才)	H24 (4才)	H25 (3才)	H26 (2才)	H27 (1才)	増減数	増減率
外ヶ輪小学校	388	377	373	356	365	347	332	56	14.4%	63	59	57	49	71	48	48	15	23.3%
二葉小学校	329	314	320	332	316	312	307	22	6.7%	61	47	55	57	47	45	56	5	8.2%
東豊小学校	597	575	562	550	524	504	492	105	17.6%	99	79	90	87	79	70	87	12	12.1%
御免町小学校	507	507	490	495	460	434	419	88	17.3%	79	75	67	74	66	73	64	15	19.0%
猿橋小学校	776	787	781	779	772	783	771	5	0.6%	133	125	123	134	135	133	121	12	9.0%
住吉小学校	445	439	439	441	442	454	447	2	0.4%	78	68	77	70	75	86	71	7	9.0%
松浦小学校	89	83	86	81	85	80	79	10	11.2%	11	12	17	14	17	9	10	1	9.1%
五十公野小学校	276	271	242	237	253	260	262	14	5.1%	44	39	33	43	54	47	46	2	4.5%
米倉小学校	65	66	60	57	59	48	46	19	29.2%	10	11	9	6	7	5	8	2	20.0%
赤谷小学校	14	15	11	11	11	9	5	9	64.3%	4	2	-	2	-	1	-	4	100.0%
川東小学校	123	116	106	105	96	88	95	28	22.8%	13	19	13	18	12	13	20	7	53.8%
竹俣小学校	58	53	55	53	52	57	56	2	3.4%	7	11	9	12	8	10	6	1	14.3%
車野小学校	35	33	33	33	31	30	33	2	5.7%	2	7	4	5	4	8	5	3	150%
菅谷小学校	114	114	110	101	92	92	84	30	26.3%	20	19	14	14	12	13	12	8	40.0%
七葉小学校	287	274	253	223	200	176	168	119	41.5%	32	36	28	31	31	18	24	8	25.0%
佐々木小学校	179	172	155	143	134	123	121	58	32.4%	19	26	23	17	19	19	17	2	10.5%
荒橋小学校	68	67	62	63	67	62	62	6	8.8%	15	8	9	15	10	5	15	0	0%
中浦小学校	150	145	133	129	121	109	99	51	34.0%	25	18	12	20	21	13	15	10	40.0%
天王小学校	93	91	83	81	81	80	80	13	14.0%	10	15	16	11	13	15	10	0	0%
本田小学校	115	109	96	93	91	77	77	38	33.0%	14	11	13	16	13	10	14	0	0%
紫雲寺小学校	191	185	183	191	177	180	178	13	6.8%	33	27	35	34	25	26	31	2	6.1%
米子小学校	92	91	83	88	84	86	88	4	4.3%	11	17	9	20	12	17	13	2	18.2%
藤塚小学校	108	110	107	104	100	106	111	3	2.80%	14	26	16	15	15	20	19	5	35.7%
加治川小学校	315	314	294	267	257	258	256	59	18.7%	42	50	44	36	41	45	40	2	4.8%
合計	5,414	5,308	5,117	5,013	4,870	4,755	4,668	746	13.8%	839	807	773	800	787	749	752	87	10.4%

< 中学校 >

学校名	全生徒数の推移									新入学生徒数の推移								
	年度							H21とH27の比較		年度							H21とH27の比較	
	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	増減数	増減率	H21 (13才)	H22 (12才)	H23 (11才)	H24 (10才)	H25 (9才)	H26 (8才)	H27 (7才)	増減数	増減率
本丸中学校	554	553	534	511	503	500	514	40	7.2%	187	186	161	164	178	158	178	9	4.8%
第一中学校	382	384	381	378	402	408	417	35	9.2%	116	129	136	113	153	142	122	6	5.2%
猿橋中学校	583	556	582	603	638	629	642	59	10.1%	185	187	210	206	222	201	219	34	18.4%
東中学校	264	243	245	248	232	214	201	63	23.9%	79	71	95	82	55	77	69	10	12.7%
川東中学校	125	131	118	121	107	108	91	34	27.2%	35	49	34	38	35	35	21	14	40.0%
七葉中学校	222	225	211	218	227	213	182	40	18.0%	77	66	68	84	75	54	53	24	31.2%
佐々木中学校	127	107	110	101	94	84	73	54	42.5%	38	33	39	29	26	29	18	20	52.6%
豊浦中学校	237	216	222	223	223	208	205	32	13.5%	67	66	89	68	66	74	65	2	3.0%
紫雲寺中学校	216	221	224	206	204	183	181	35	16.2%	77	75	72	59	73	51	57	20	26.0%
加治川中学校	174	160	164	176	177	160	139	35	20.1%	51	51	62	63	52	45	42	9	17.6%
合計	2,884	2,796	2,791	2,785	2,807	2,707	2,645	239	8.3%	912	913	966	906	935	866	844	68	7.5%

新発田市立小・中学校の
望ましい教育環境に関する基本方針

参 考 資 料 編

1	学校別児童・生徒・学級数一覧	1
2	中学校区別児童・生徒数の推移	3
3	学校規模の区分及び適正規模の根拠法令	13
4	学校規模別学校数の比較（H21:H27）	14
5	学級数別学校割合（H21:H27）	14
6	学級人数別学校割合（H21:H27）	15
7	小規模校のメリット・デメリット	16

平成22年3月

新発田市教育委員会

学校別児童・生徒・学級数一覧

(H21.5.1 現在)

小学校

(2段の上段は特別支援学級在籍児童・生徒数)

学校名	区分	1年				2年				3年				4年				5年				6年				合計								
		男	女	計	学級数	男	女	計	学級数	男	女	計	学級数	男	女	計	学級数	男	女	計	学級数	男	女	計	学級数	男	女	計	学級数					
外ヶ輪	小学校	2	35	26	2	4	30	32	4	1	28	31	2	3	33	33	66	2	1	37	22	1	2	36	33	69	2	8	199	177	376	12	3	
猿橋	小学校	2	68	63	5	4	58	60	4	3	66	72	4	4	61	70	131	4	3	60	66	126	4	55	59	114	3	16	368	390	758	24	4	
御免町	小学校	4	36	39	3	1	56	42	4	1	37	62	3	1	30	38	68	2	2	42	40	82	3	4	42	70	2	13	229	263	492	15	3	
二葉	小学校	3	35	23	2	1	34	14	2	3	34	29	2	3	22	19	41	2	3	27	19	46	2	30	32	62	2	10	182	136	318	11	3	
松浦	小学校	1	4	6	1	1	8	5	1	4	9	13	1	1	4	14	18	1	6	8	14	1	8	9	17	1	4	34	51	85	4	6		
五十公野	小学校	1	23	19	2	1	21	18	2	1	22	16	1	1	22	24	46	2	3	32	27	59	2	1	20	43	2	7	143	124	267	9	2	
米倉	小学校	1	5	3	1	10	6	16	1	1	4	5	複式 1	5	3	8	-	8	6	14	1	5	4	9	1	3	34	26	60	5	1	5		
赤谷	小学校	2	2	4	複式 1	3	3	-						2	2	2	1	2	2	4	複式 1	1	1	1	-	10	4	14	3	2	2	1		
川東	小学校	8	5	13	1	11	10	21	1	6	14	20	1	1	8	10	18	1	10	13	23	1	11	15	26	1	5	54	67	121	6	6		
竹俣	小学校	4	3	7	1	3	2	5	複式 1	3	6	9	-	10	4	14	1	2	5	7	1	10	6	16	1	32	26	58	5	5				
車野	小学校	2	2	2	1	5	4	9	1	2	4	6	複式 1	4	1	5	-	2	2	4	複式 1	6	3	9	-	21	14	35	4	4				
菅谷	小学校	6	14	20	1	1	5	7	12	1	9	12	21	1	10	12	22	1	13	5	18	1	11	8	19	1	1	54	58	112	2	1		
七葉	小学校	1	12	19	1	17	25	42	2	23	31	54	2	2	25	34	59	2	27	22	49	2	19	30	49	2	3	123	161	284	3	1		
佐々木	小学校	1	7	11	1	2	12	16	28	1	18	10	28	1	14	15	29	1	24	16	40	1	18	15	33	1	3	93	83	176	3	6		
住吉	小学校	1	36	39	3	5	29	40	69	3	1	34	39	73	2	31	36	67	2	39	37	76	2	36	37	73	2	8	205	228	433	4	2	
東豊	小学校	1	48	50	4	2	44	42	86	3	2	51	104	3	52	46	98	3	4	56	43	99	3	44	52	96	3	11	297	284	581	16	3	
中浦	小学校	12	13	25	1	1	15	9	24	1	13	16	29	1	15	8	23	1	13	11	24	1	13	10	23	1	2	81	67	148	2	2		
天王	小学校	4	6	10	1	7	9	16	1	9	3	12	1	1	6	6	12	1	11	11	22	1	8	8	16	1	5	45	43	88	5	1		
荒橋	小学校	4	10	14	1	6	4	10	複式 1	5	1	6	-	7	4	11	1	8	6	14	1	3	6	9	1	1	33	31	64	4	1			
本田	小学校	3	11	14	1	11	13	24	1	7	8	15	1	4	15	19	1	18	8	26	1	8	9	17	1	51	64	115	6	6				
紫雲寺	小学校	1	18	14	1	9	14	23	1	21	18	39	1	14	12	26	1	16	19	35	1	16	16	32	1	4	94	93	187	4	6			
米子	小学校	7	4	11	1	7	8	15	1	10	6	16	1	9	6	15	1	8	9	17	1	11	6	17	1	1	52	39	91	1	6			
藤塚	小学校	6	8	14	1	6	8	14	1	8	11	19	1	9	9	18	1	11	8	19	1	11	13	24	1	51	57	108	6	6				
加治川	小学校	23	18	41	2	1	16	27	43	2	23	27	50	2	30	33	63	2	33	31	64	2	21	29	50	2	3	146	165	311	4	1		
合計		19	408	406	39	24	423	415	38	9	436	480	33	16	427	452	879	34	22	505	436	941	37	15	432	462	894	33	105	2631	2651	5282	33	214

学校別児童・生徒・学級数一覧

(H21.5.1 現在)

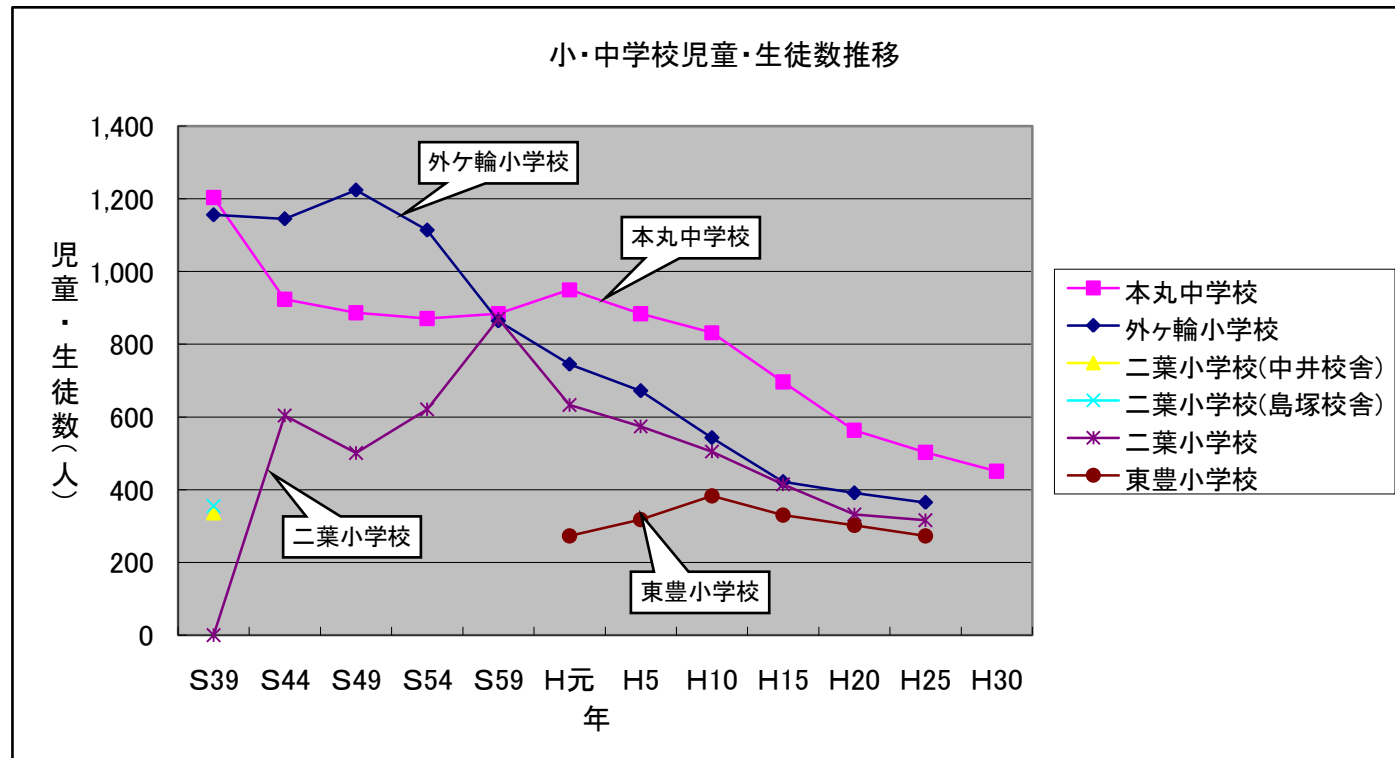
中学校

(2段の上段は特別支援学級在籍児童・生徒数)

区分 学校名	1 年				2 年				3 年				合 計			
	男	女	計	学級数	男	女	計	学級数	男	女	計	学級数	男	女	計	学級数
本丸 中学校	5	1	6		3		3		3		3		11	1	12	2
	98	83	181	5	99	78	177	5	102	82	184	5	299	243	542	15
第一 中学校	3		3		1	1	2		1	1	2		5	2	7	2
	64	49	113	4	80	57	137	4	59	66	125	4	203	172	375	12
猿橋 中学校	3		3		3		3		1		1		7		7	2
	86	96	182	5	86	95	181	5	129	84	213	6	301	275	576	16
東 中学校	45	34	79	3	49	44	93	3	42	50	92	3	136	128	264	9
川東 中学校					1		1						1		1	1
	15	20	35	1	24	22	46	2	18	25	43	2	57	67	124	5
七葉 中学校																
	39	38	77	2	40	42	82	3	36	27	63	2	115	107	222	7
佐々木 中学校	14	24	38	1	16	20	36	1	25	28	53	2	55	72	127	4
豊浦 中学校	2		2		2	1	3						4	1	5	2
	35	30	65	2	38	42	80	2	41	46	87	3	114	118	232	7
紫雲寺 中学校					1		1		1	1	2		2	1	3	2
	39	38	77	2	31	37	68	2	37	31	68	2	107	106	213	6
加治川 中学校	2	1	3							1	1		2	2	4	1
	26	22	48	2	34	24	58	2	28	36	64	2	88	82	170	6
合計	15	2	17		11	2	13		6	3	9		32	7	39	12
	461	434	895	27	497	461	958	29	517	475	992	31	1475	1370	2845	87

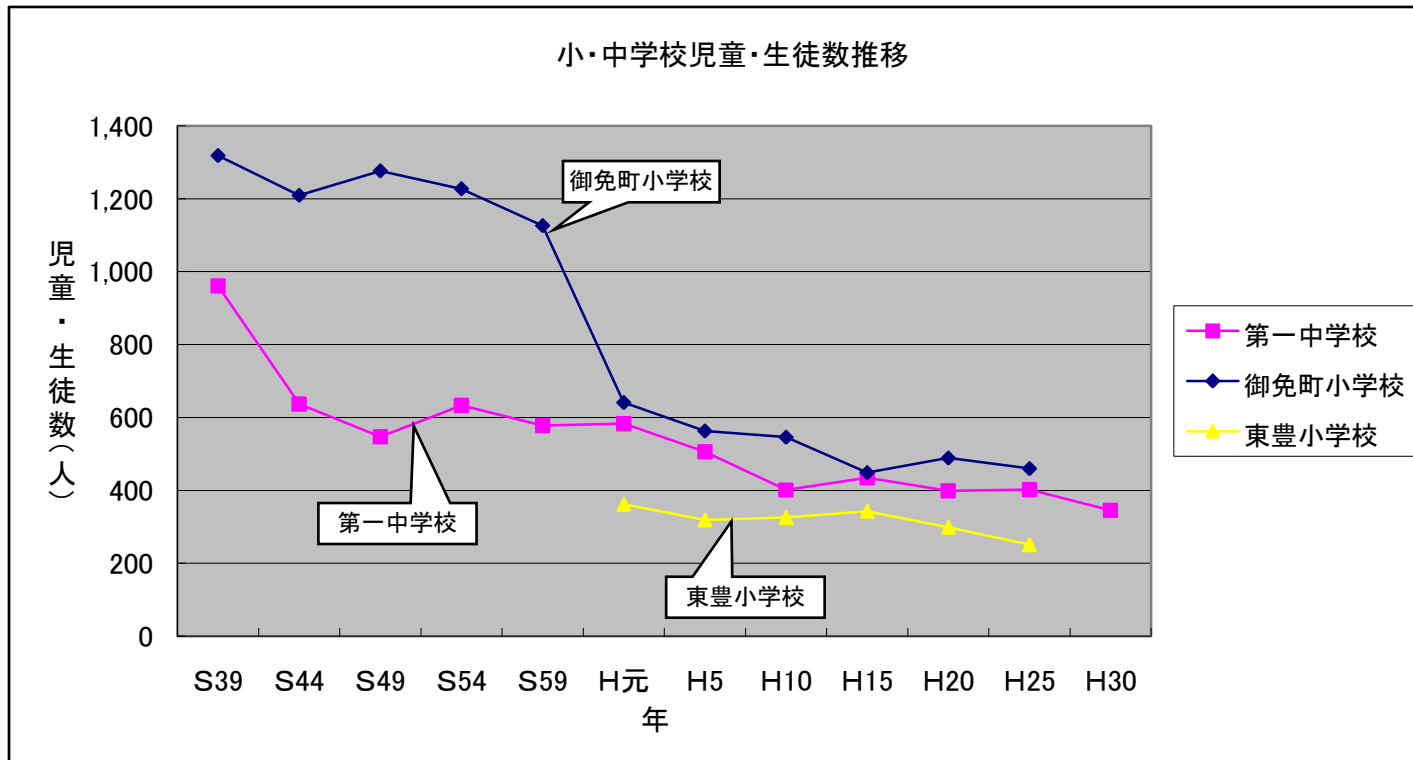
【本丸中学校区】小・中学校 児童・生徒数 推移

学校名	S 39	S 44	S 49	S 54	S 59	H元	H5	H10	H15	H20	H25	H30
本丸中学校	1,204	924	887	871	884	950	884	832	697	564	503	451
外ヶ輪小学校	1,156	1,145	1,224	1,114	864	745	672	543	422	391	365	
二葉小学校(中井校舎)	336											
二葉小学校(島塚校舎)	355											
二葉小学校		604	501	621	870	633	574	505	415	332	316	
東豊小学校						273	318	383	330	302	273	
合 計	3,051	2,673	2,612	2,606	2,618	2,601	2,448	2,263	1,864	1,589	1,457	451



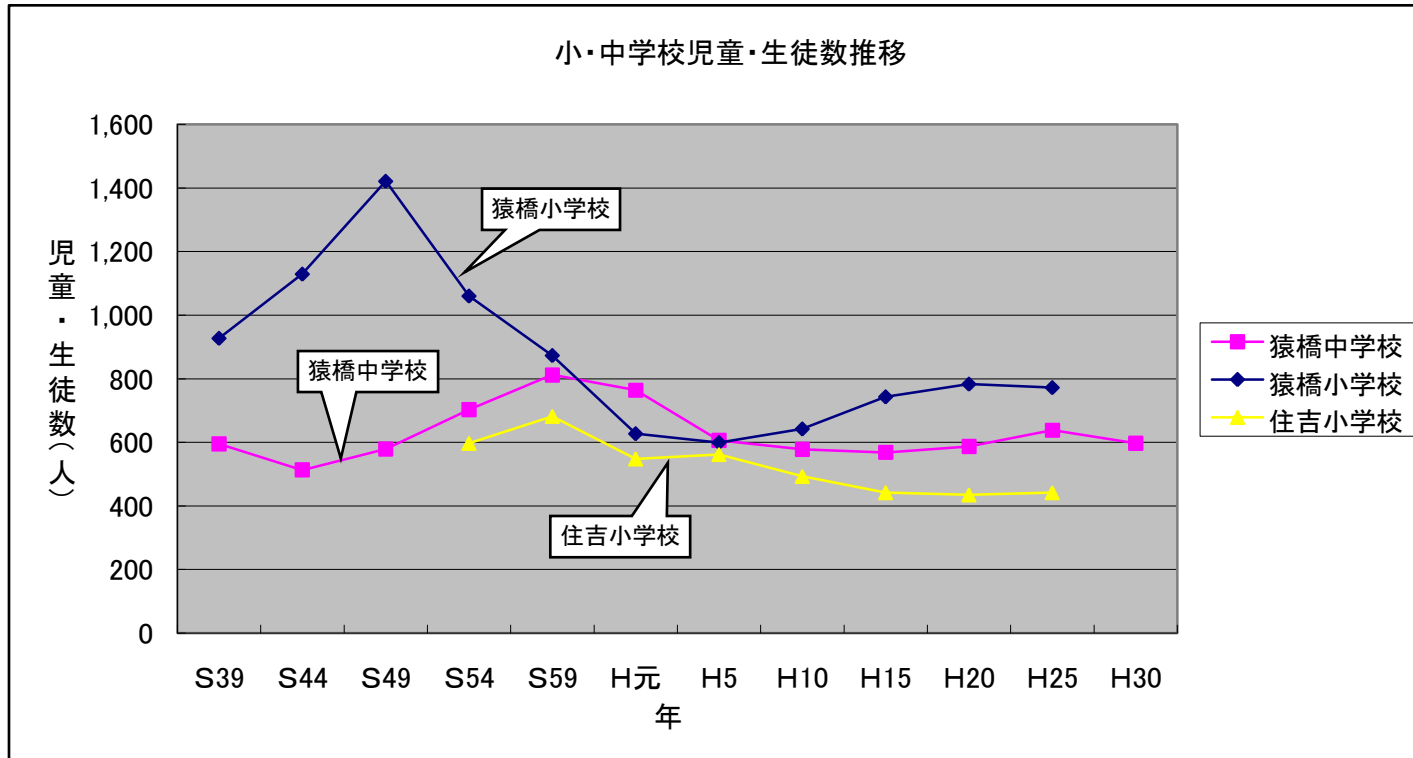
【第一中学校区】小・中学校 児童・生徒数 推移

学校名	S 39	S 44	S 49	S 54	S 59	H元	H5	H10	H15	H20	H25	H30
第一中学校	961	637	547	633	578	583	506	401	435	399	402	345
御免町小学校	1,318	1,209	1,276	1,227	1,126	641	563	546	449	489	460	
東豊小学校						362	319	326	343	299	251	
合 計	2,279	1,846	1,823	1,860	1,704	1,586	1,388	1,273	1,227	1,187	1,113	345



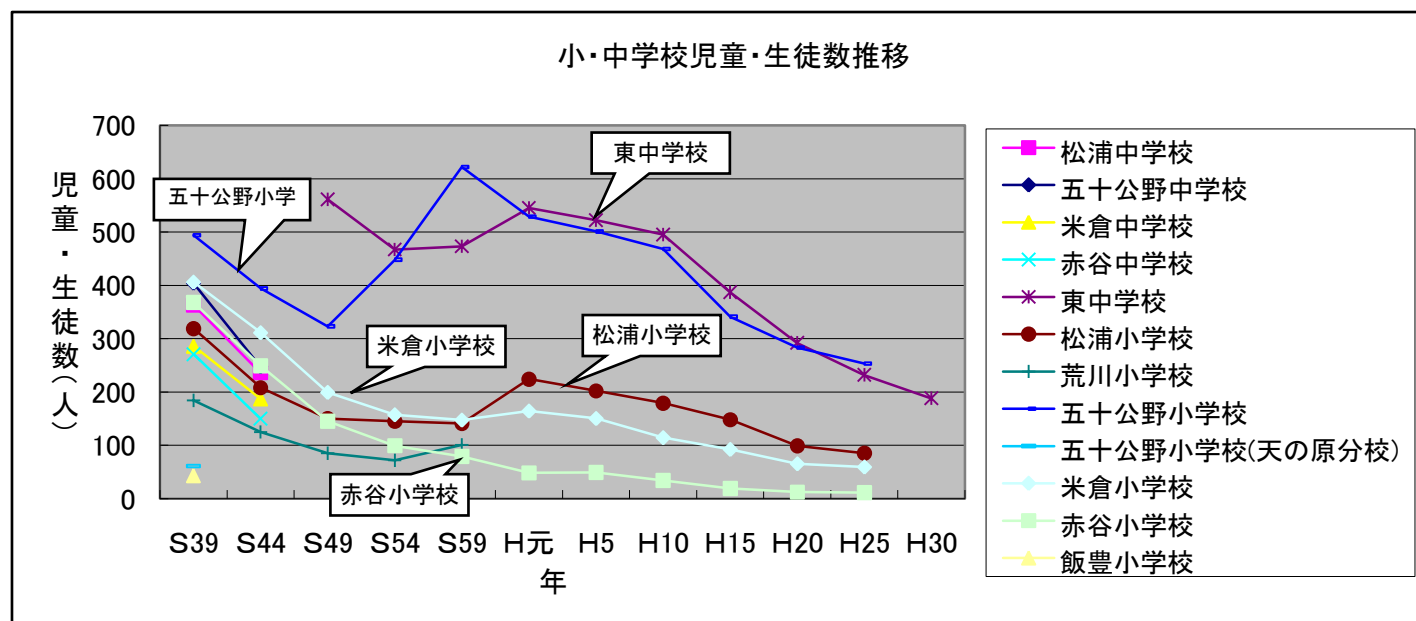
【猿橋中学校区】小・中学校 児童・生徒数 推移

学校名	S 39	S 44	S 49	S 54	S 59	H元	H5	H10	H15	H20	H25	H30
猿橋中学校	595	513	579	703	812	764	606	578	568	587	638	597
猿橋小学校	927	1,129	1,421	1,060	873	627	599	642	743	783	772	
住吉小学校				597	682	548	562	493	442	435	442	
合 計	1,522	1,642	2,000	2,360	2,367	1,939	1,767	1,713	1,753	1,805	1,852	597



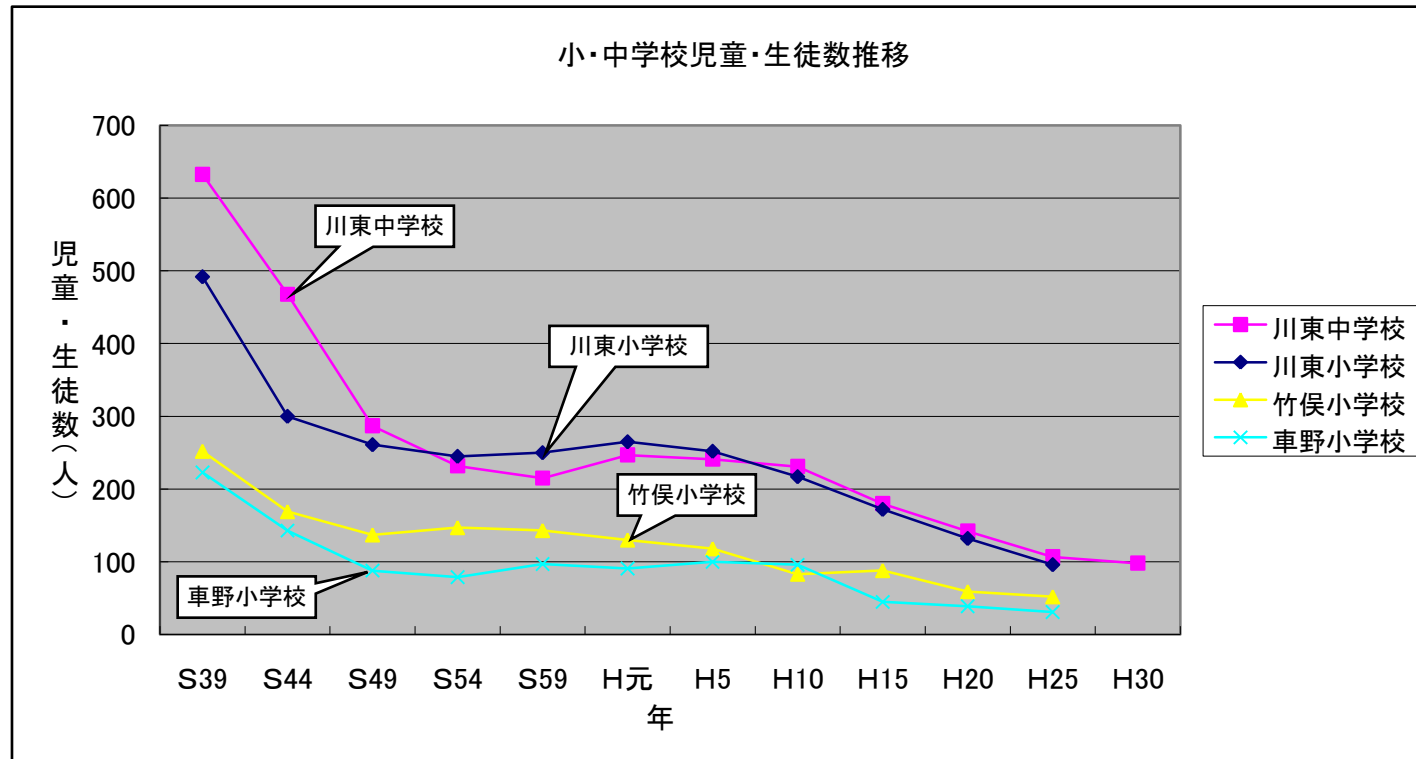
【東中学校区】小・中学校 児童・生徒数 推移

学校名	S 39	S 44	S 49	S 54	S 59	H元	H5	H10	H15	H20	H25	H30
松浦中学校	363	236	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
五十公野中学校	404	247	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
米倉中学校	286	187	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
赤谷中学校	271	150	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
東中学校	/	/	561	467	473	545	522	495	387	292	232	188
松浦小学校	319	208	150	145	141	224	202	179	148	99	85	/
荒川小学校	184	125	85	72	101	/	/	/	/	/	/	/
五十公野小学校	494	394	323	448	622	529	501	468	341	283	253	/
五十公野小学校(天の原分校)	61	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
米倉小学校	406	311	199	157	147	164	150	114	92	65	59	/
赤谷小学校	368	249	145	99	79	48	49	34	19	12	11	/
飯豊小学校	43	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
合 計	3,199	2,107	1,463	1,388	1,563	1,510	1,424	1,290	987	751	640	188



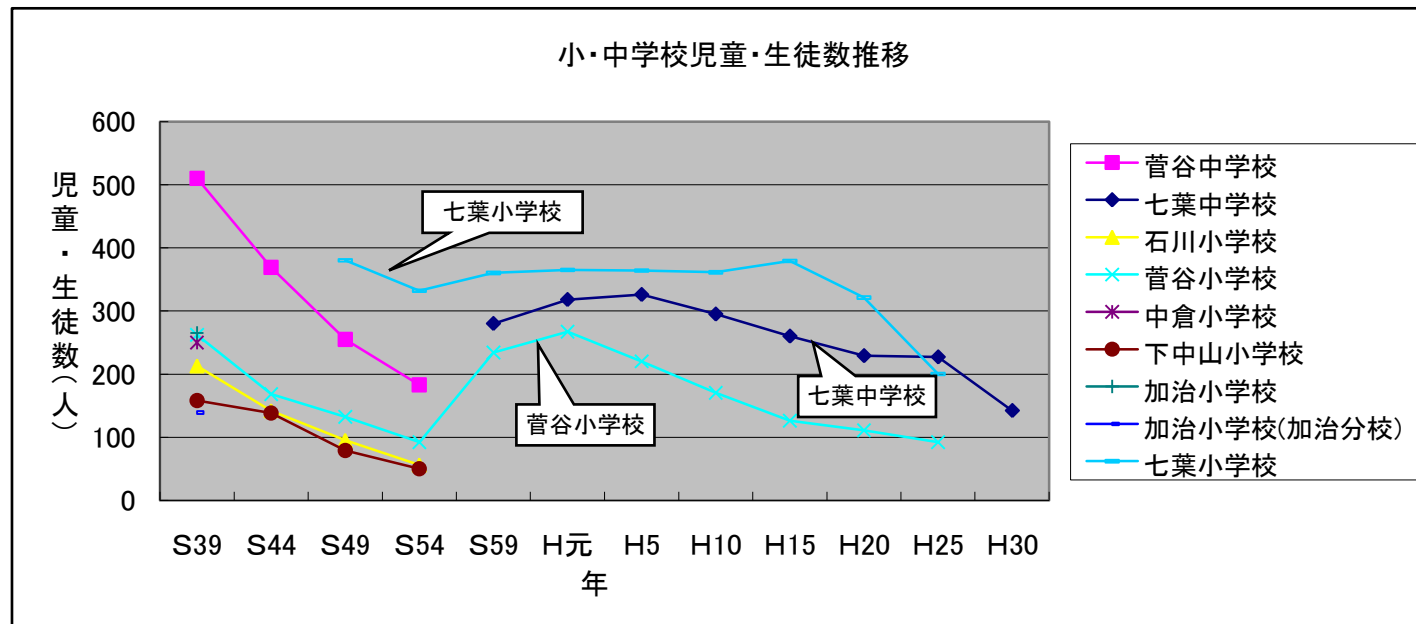
【川東中学校区】小・中学校 児童・生徒数 推移

学校名	S 39	S 44	S 49	S 54	S 59	H元	H5	H10	H15	H20	H25	H30
川東中学校	633	468	287	232	215	247	241	231	180	142	107	98
川東小学校	492	300	261	245	250	265	252	217	172	132	96	
竹俣小学校	252	169	137	147	143	130	118	83	88	59	52	
車野小学校	223	143	88	79	97	91	100	96	45	39	31	
合 計	1,600	1,080	773	703	705	733	711	627	485	372	286	98



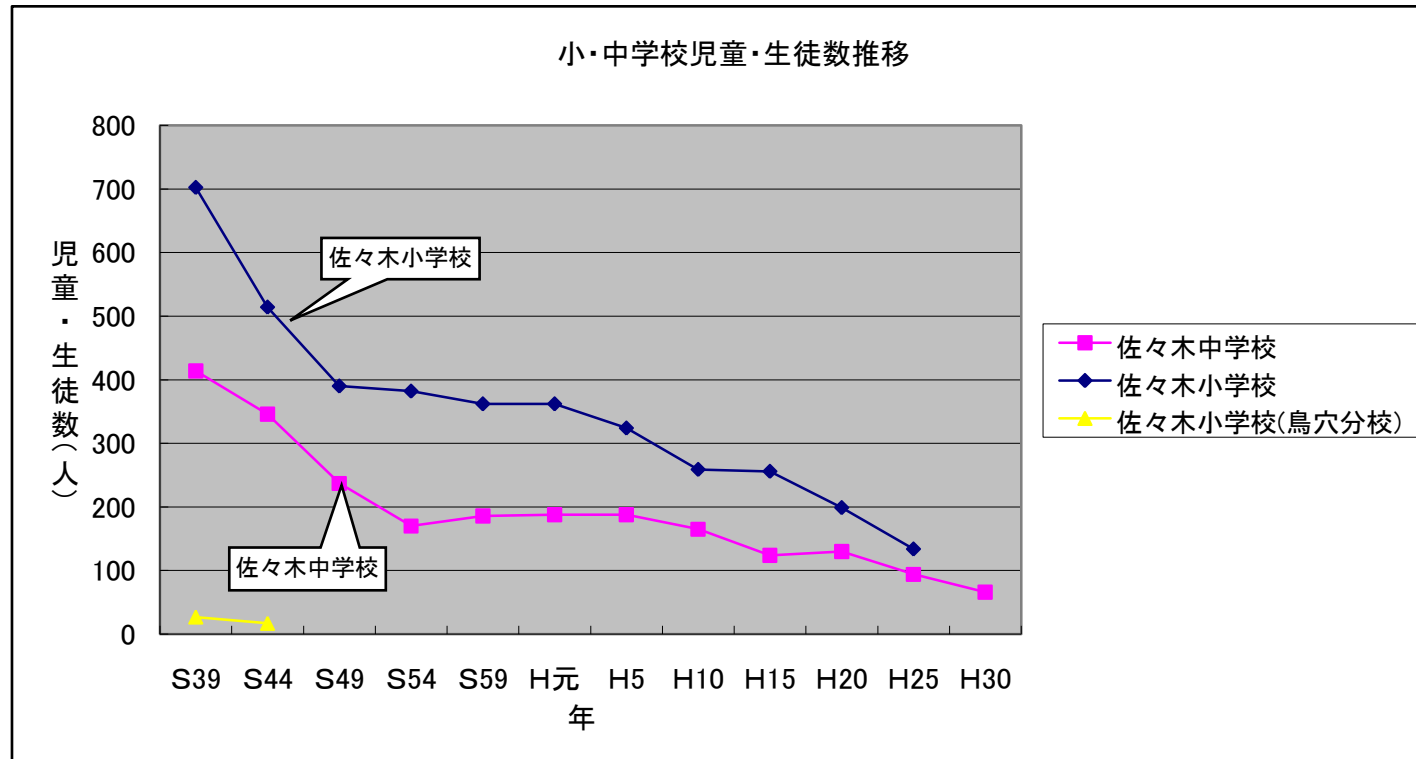
【七葉中学校区】小・中学校 児童・生徒数 推移

学校名	S 39	S 44	S 49	S 54	S 59	H元	H5	H10	H15	H20	H25	H30
菅谷中学校	510	369	255	183	/	/	/	/	/	/	/	/
七葉中学校	/	/	/	/	280	318	326	295	260	229	227	142
石川小学校	213	142	95	56	/	/	/	/	/	/	/	/
菅谷小学校	262	168	132	92	234	267	220	170	126	111	92	/
中倉小学校	250	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
下中山小学校	158	138	79	50	/	/	/	/	/	/	/	/
加治小学校	265	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
加治小学校(加治分校)	139	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
七葉小学校	/	/	380	332	360	365	364	361	379	321	200	/
合 計	1,797	817	941	713	874	950	910	826	765	661	519	142



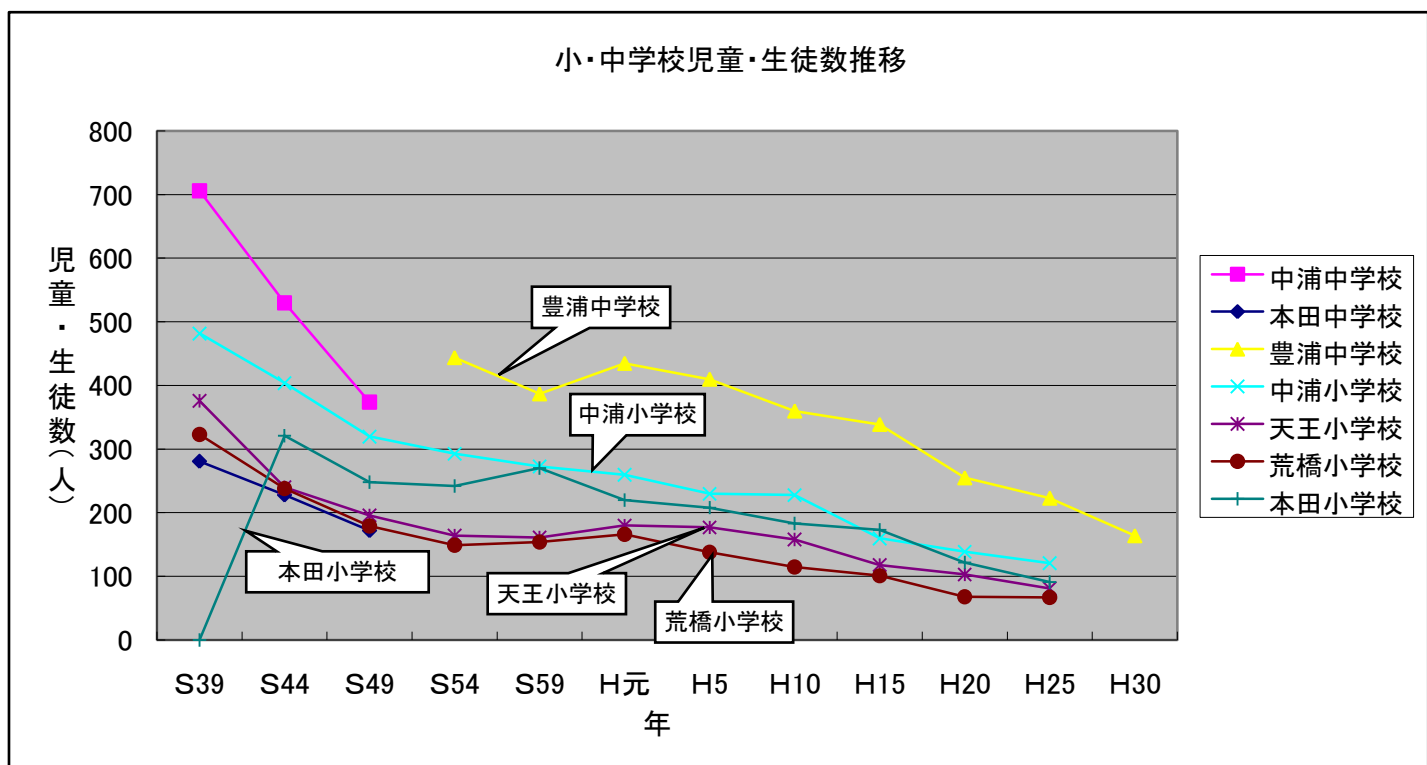
【佐々木中学校区】 小・中学校 児童・生徒数 推移

学校名	S 39	S 44	S 49	S 54	S 59	H元	H5	H10	H15	H20	H25	H30
佐々木中学校	414	346	237	170	186	188	188	165	124	130	94	66
佐々木小学校	702	514	390	382	362	362	324	259	256	199	134	
佐々木小学校(鳥穴分校)	27	17										
合 計	1,143	877	627	552	548	550	512	424	380	329	228	66



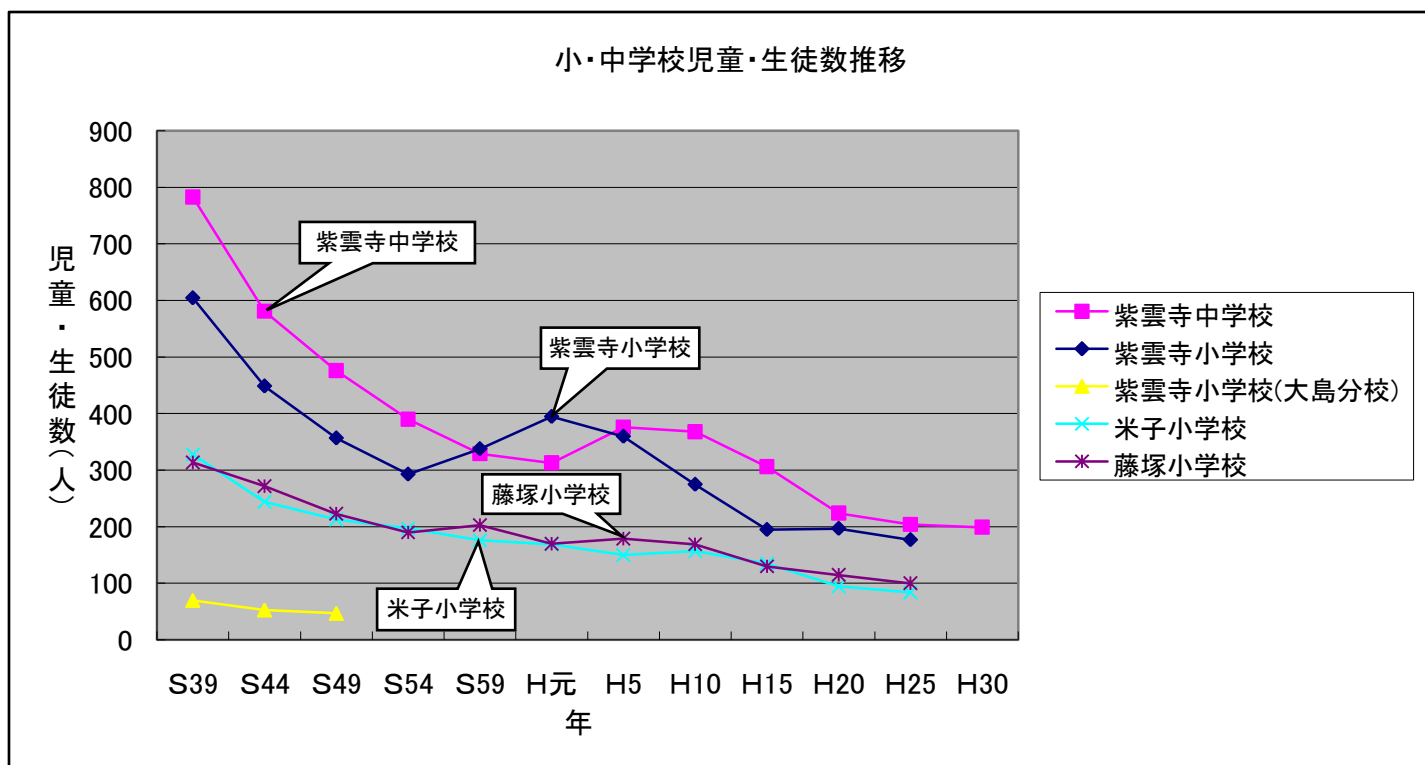
【豊浦中学校区】小・中学校 児童・生徒数 推移

学校名	S 39	S 44	S 49	S 54	S 59	H元	H5	H10	H15	H20	H25	H30
中浦中学校	706	530	374	/	/	/	/	/	/	/	/	/
本田中学校	281	228	172	/	/	/	/	/	/	/	/	/
豊浦中学校	/	/	/	444	387	435	410	360	339	255	223	164
中浦小学校	482	404	320	293	273	260	230	228	160	139	121	/
天王小学校	376	240	196	164	161	180	177	158	118	103	81	/
荒橋小学校	323	238	179	149	154	166	138	115	101	68	67	/
本田小学校	/	321	248	242	270	220	208	183	173	122	91	/
合 計	2,168	1,961	1,489	1,292	1,245	1,261	1,163	1,044	891	687	583	164



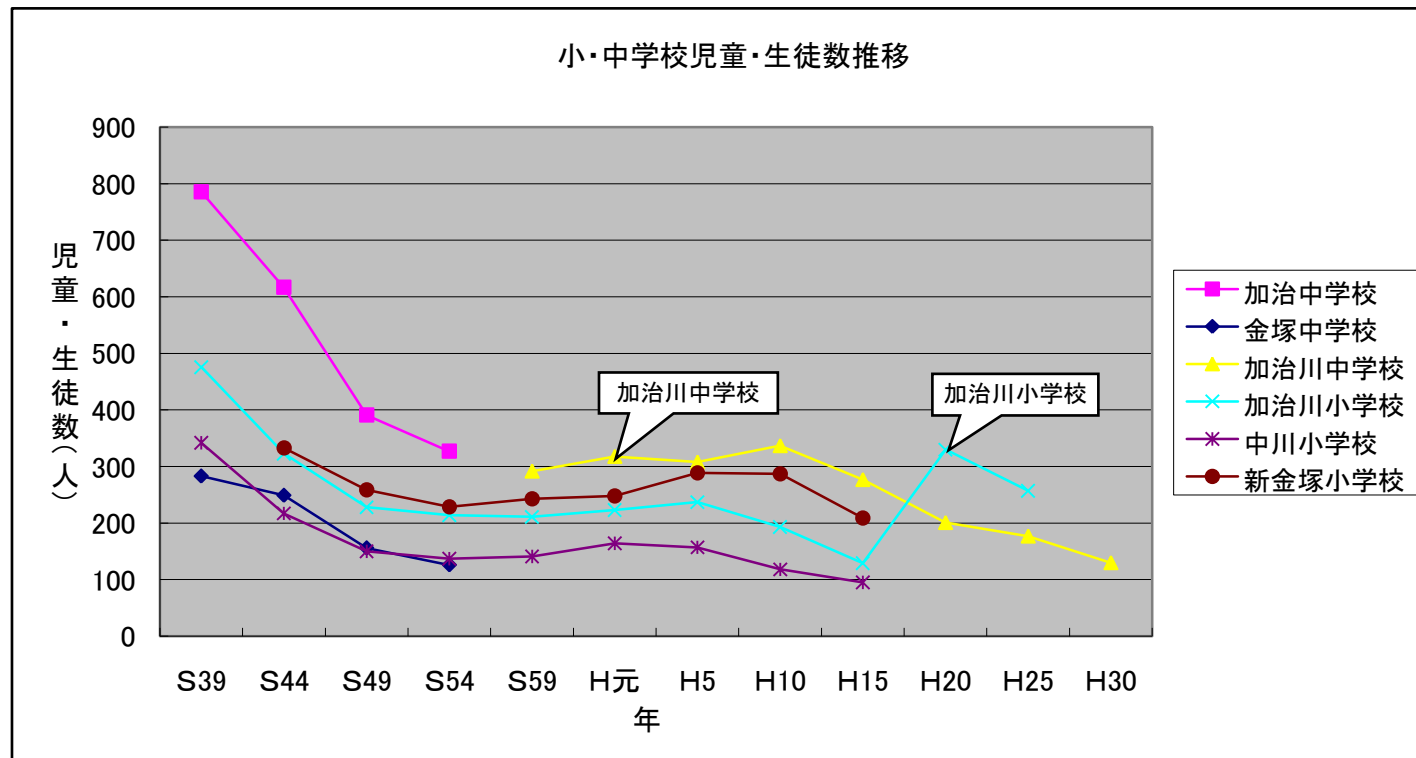
【紫雲寺中学校区】小・中学校 児童・生徒数 推移

学校名	S 39	S 44	S 49	S 54	S 59	H元	H5	H10	H15	H20	H25	H30
紫雲寺中学校	783	581	476	390	329	313	376	368	306	224	204	199
紫雲寺小学校	605	449	357	293	338	395	360	275	195	197	177	
紫雲寺小学校(大島分校)	70	53	47									
米子小学校	328	244	213	197	176	169	150	157	135	95	84	
藤塚小学校	314	272	223	190	203	170	179	169	130	115	100	
合 計	2,100	1,599	1,316	1,070	1,046	1,047	1,065	969	766	631	565	199



【加治川中学校区】小・中学校 児童・生徒数 推移

学校名	S 39	S 44	S 49	S 54	S 59	H元	H5	H10	H15	H20	H25	H30
加治中学校	786	617	391	327	/	/	/	/	/	/	/	/
金塚中学校	283	249	156	126	/	/	/	/	/	/	/	/
加治川中学校	/	/	/	/	292	318	308	337	277	201	177	130
加治川小学校	476	323	228	214	211	223	237	193	129	330	257	/
中川小学校	342	217	150	137	141	164	157	118	95	/	/	/
貝屋小学校	231	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
金塚小学校	247	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
新金塚小学校	/	333	259	229	243	248	289	287	209	/	/	/
合 計	2,365	1,739	1,184	1,033	887	953	991	935	710	531	434	130



学校規模の区分及び適正規模の根拠法令

①学校規模区分

学校規模区分	学 級 数	
	小 学 校	中 学 校
過小規模	5学級以下	2学級以下
小規模	6～11学級	3～11学級
適正規模	12～18学級	12～18学級
大規模	19～30学級	19～30学級
過大規模	31学級以上	31学級以上

※ 学校規模区分の名称は、法令用語ではなく通称。（文部科学省）

②「適正な学校規模」を規定している法令

ア) 学校教育法施行規則

第17条（学級数）

小学校の学級数は、12学級以上18学級以下を標準とする。ただし、地域の実態その他により特別の事情のあるときは、この限りでない。

※ 同条は、第55条で中学校に準用

イ) 義務教育諸学校施設費国庫負担法施行令

第4条（適正な学校規模の条件）

- (1) 学級数がおおむね12学級から18学級までであること。
 - (2) 通学距離が、小学校にあってはおおむね4キロメートル以内、中学校にあってはおおむね6キロメートル以内であること。
- 2 5学級以下の学級数の学校と前項第1号に規定する学級数の学校とを統合する場合には、同項同号中「18学級」とあるのは「24学級」とする。
- 3 統合後の学校の学級数又は通学距離が第1項第1号又は第2号に掲げる条件に適合しない場合においても、文部科学大臣が教育効果、交通の便その他の事情を考慮して適当と認めるときは、当該学級数又は通学距離は、同項第1号又は第2号に掲げる条件に適合するものとみなす。

学校規模別学校数の比較（平成21年：平成27年）

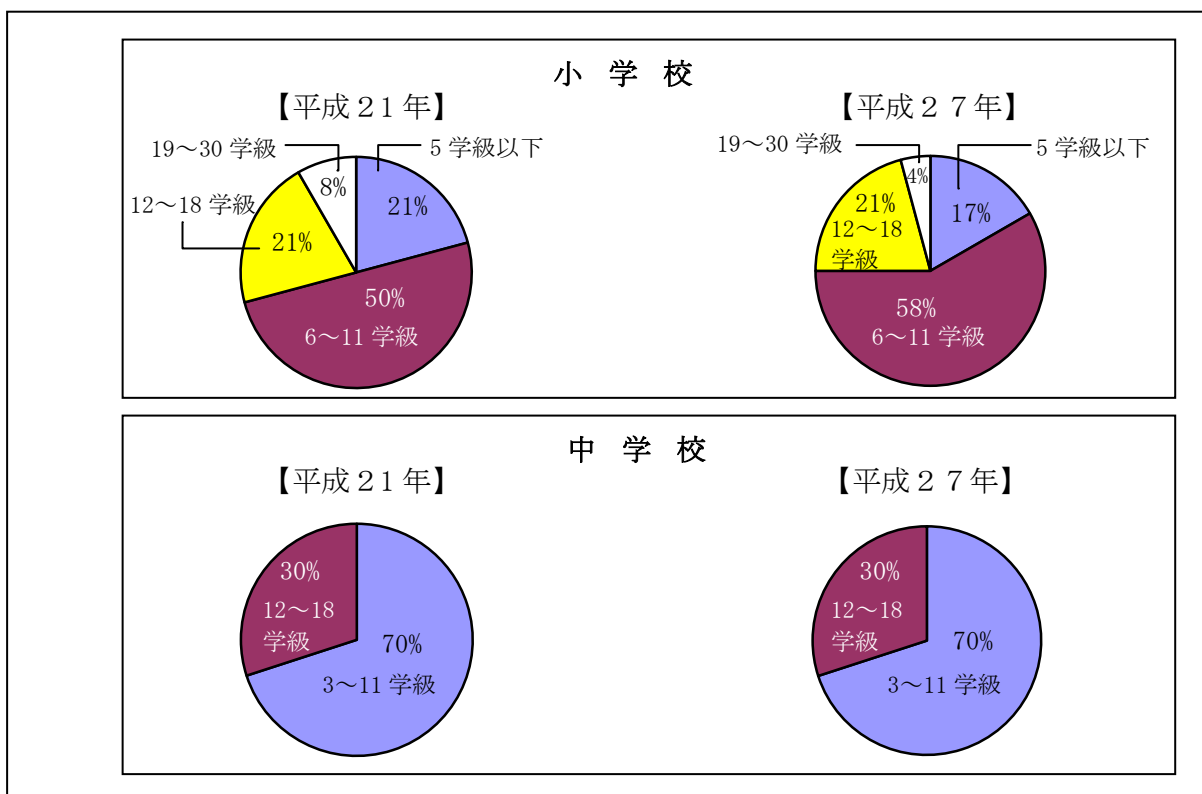
①小学校

学級数 年	過小規模	小規模	適正規模	大規模	過大規模	合計
	5以下	6～11	12～18	19～30	31以上	
H21	5校	12校	5校	2校	0校	24校
H27	4校	14校	5校	1校	0校	24校

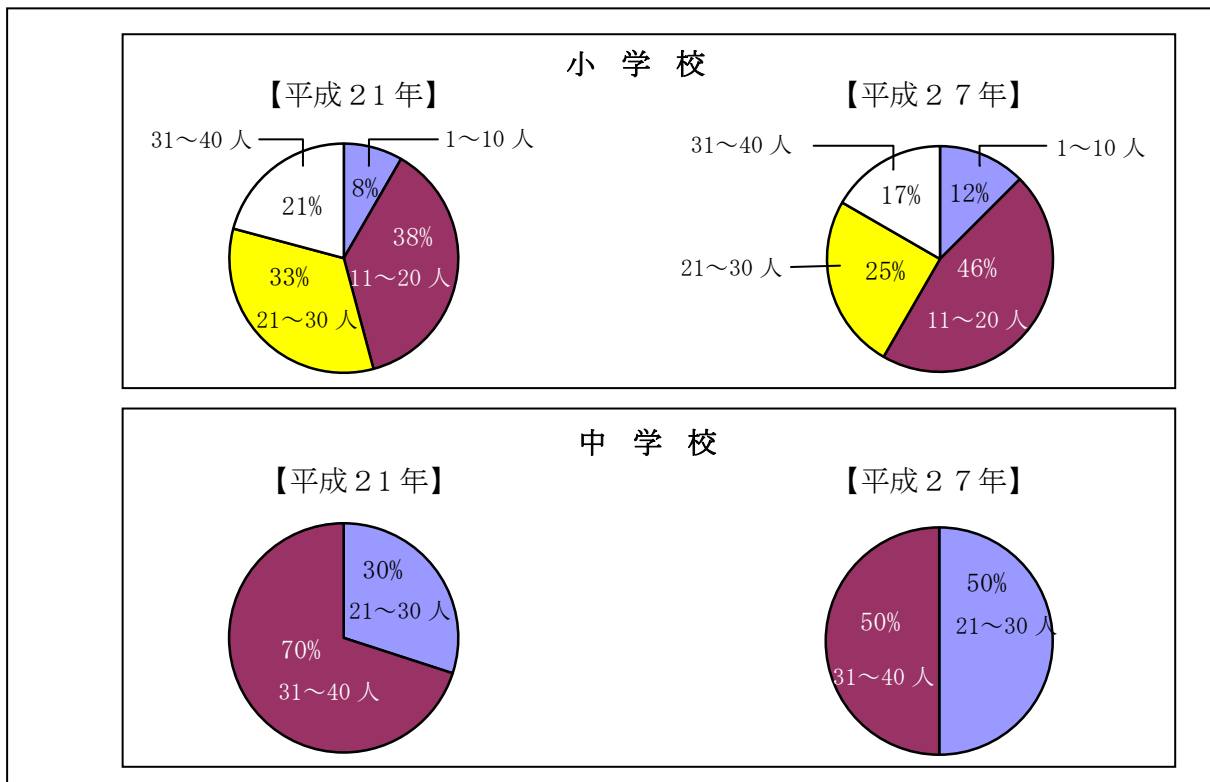
②中学校

学級数 年	過小規模	小規模	適正規模	大規模	過大規模	合計
	2以下	3～11	12～18	19～30	31以上	
H21	0校	7校	3校	0校	0校	10校
H27	0校	7校	3校	0校	0校	10校

学級数別学校割合（平成21年：平成27年）



学級人数別学校割合（平成21年：平成27年）



小規模校のメリット・デメリット

	メリット	デメリット
人間関係面	<ul style="list-style-type: none"> ○ いじめや不登校が把握しやすく、指導もしやすい。 ○ 子ども同士、子どもと教師及び保護者（地域）と教師の間で、当事者意識や緊密な関係を築きやすい。 ○ 異学年交流が盛んになり、助け合いなど濃密な人間関係が築ける。 ○ 主役となれる機会が多く、自己存在感を得られやすい。 ○ 地域の教育力がより生かせる。 ○ 協調性や連帯感が生まれやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 人間関係が固定化しやすく、新たな人間関係を築くことが難しい。 ○ 多様なものの考え方が生まれにくい。 ○ 成長のための刺激が薄く、視野を広げにくい。 ○ リーダーが育ちにくい。
教育指導面	<ul style="list-style-type: none"> ○ 個に応じた指導ができ、子どもの持っている力を引き出しやすい。 ○ 先生が目が行き届き、指導徹底が図りやすい。 ○ 学校ぐるみ、地域ぐるみの活動に取り組みやすい。 ○ 校風を浸透しやすい。 ○ 基本的な生活習慣を身につけやすい。 ○ 発表する機会や重要な役割を担うなど、一人ひとりの活躍の場が多い。 ○ 施設、設備、教材などを活用しやすい。 ○ 活動場所の選定、活動内容や安全面における制約が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 競争心、向上心を育みにくい。 ○ 話し合いや集団活動の機会が少なく、チーム力を育みにくい。 ○ 班やグループ活動での効果があまりあがらない。 ○ 教師に頼ってしまい、子どもの自主性が育たない。 ○ 体育や音楽など、集団での学習が難しい。 ○ 教師間で教育について討議する機会が少なく、独善的な指導に陥るおそれがある。 ○ 教師の質が、直接子どもに影響する。
学校運営面	<ul style="list-style-type: none"> ○ 意思の疎通や共通の理解がしやすく、共同歩調で運営できる。 ○ 学校の経営方針が徹底しやすい。 ○ 少人数の職員配置で、小回りの利く経営と運営ができる。 ○ 教員相互の連絡調整がしやすく、指導・方針を一つにまとめやすい。 ○ 学校の施設・設備面で、環境を整えやすい。 ○ 家庭からの協力を得やすい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 活気溢れる学校運営が難しい。 ○ 地域の協力なしに学校行事が実施できない。 ○ 教師の出張が多いと運営に支障をきたす。 ○ 学校運営上、特に経費の面で非効率である。 ○ 少人数であるがゆえに、教員の創意工夫に限度がある。 ○ 教師の専門性（担当教科）の面で支障が生じやすい。 ○ 緊急時の対応が難しい。